「私は謎だ」――マン・レイ

彼は過激なアナーキストか？
それとも、温和なヒューマニストか？

マン・レイ《セルフ・ポートレイト》1932年 東京富士美術館

生誕135年

愛しのマン・レイ

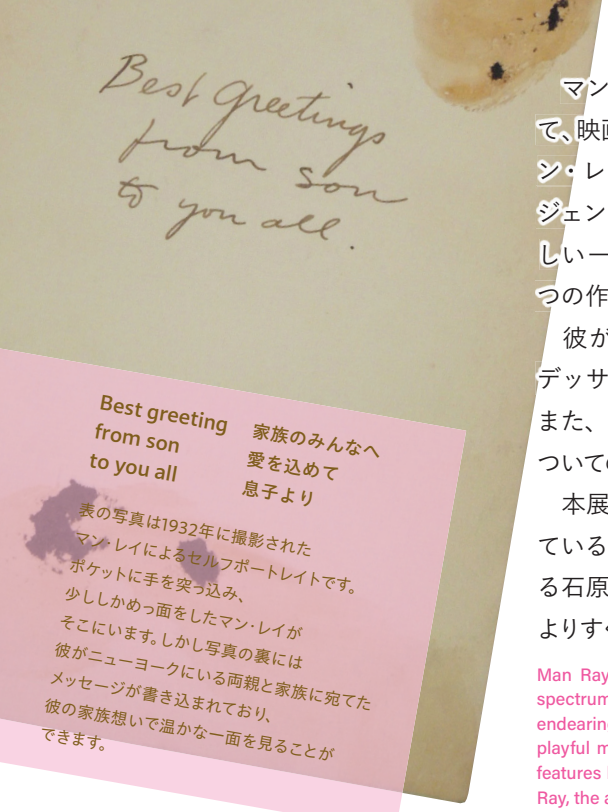
MAN RAY OF OUR AFFECTIONS

An Exhibition Celebrating the 135th Anniversary of His Birth

2025 1.11 土 > 3.23 日　2/17(月)に展示替えを行います

休 館 日：月曜日　※1/13(月祝)・2/24(月祝)は開館、1/14(火)・2/25(火)は休館
開館時間：10:00～17:00(16:30 受付終了)
主　　催：東京富士美術館　　後　　援：八王子市、八王子市教育委員会
学術監修：フランシス・M. ナウマン(ダダ・シュルレアリスム、博士)
〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1　TEL:042-691-4511　HP:www.fujibi.or.jp

FAM
TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館



Best greeting
from son
to you all

家族のみんなへ
愛を込めて
息子より

表の写真は1932年に撮影された
マン・レイによるセルフポートレイトです。
ポケットに手を突っ込み、
少ししかめっ面をしたマン・レイが
そこにいます。しかし写真の裏には
彼がニューヨークにいる両親と家族に宛てた
メッセージが書き込まれており、
彼の家族想いで温かな一面を見ることが
できます。

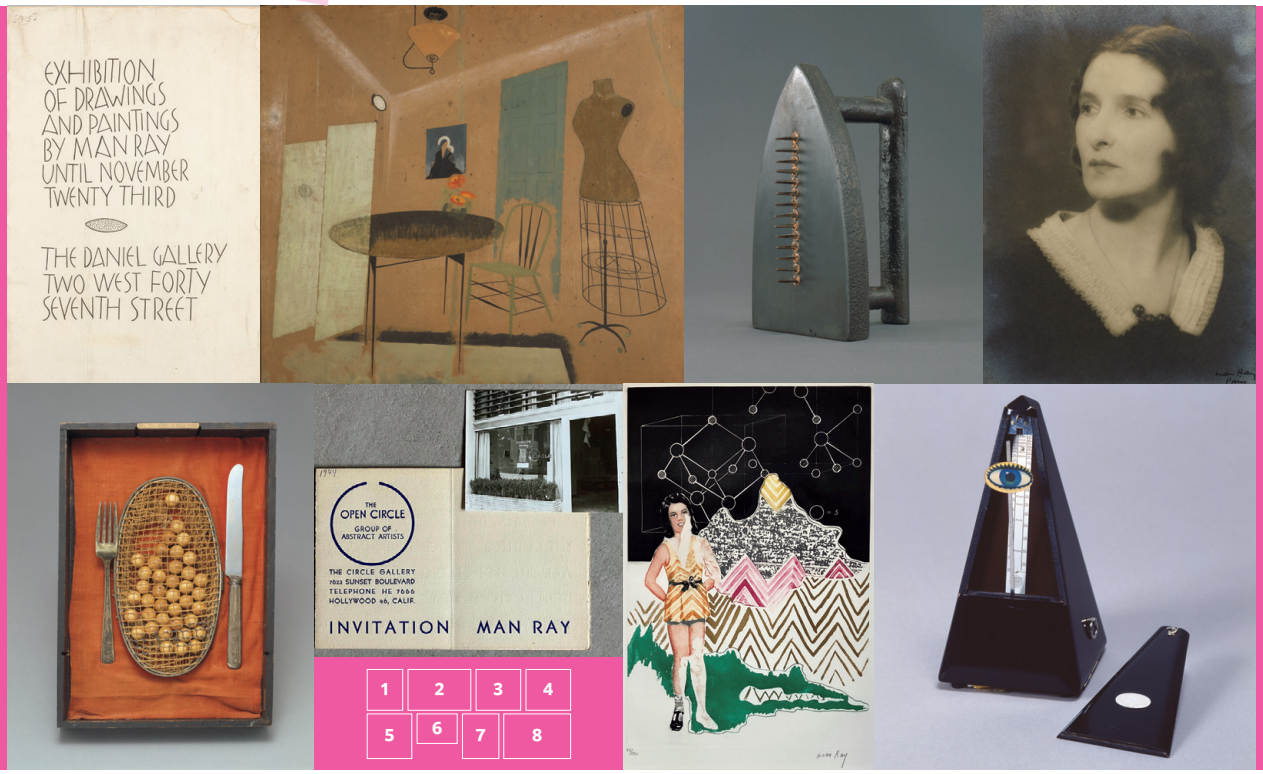
マン・レイ（1890-1976）は画家として、写真家として、オブジェ作家として、映画監督として、多彩な顔をもったマルチアーティストでした。また、マン・レイは多様な国々の、多様な考えをもつ友人たちに加えて、異なるジェンダーの人々とも分け隔（へだ）てなく親交を結んでしまう、お茶目で愛くるしい一面も持ち合わせていました。そして、彼が生み出したひとつひとつの作品には、どことなくウィットを感じさせる雰囲気がありました。

彼が姪に対して、「私は謎だ――答えがあるとすれば、私の油彩画やデッサンの中に見つかるだろう *1」と語ったことは有名です。彼は自身、また、家族の出処や素性を語ることを嫌いましたが、それゆえか、彼についての行動や足跡は、いまなお詳（つまび）らかでない部分も多々あります。

本展は、当館所蔵の作品と豊富なシュルレアリスム・コレクションを所蔵している岡崎市美術博物館の作品に、マン・レイの蒐集家（しゅうしゅうか）・研究家で知られる石原輝雄氏所蔵の作品、そして同氏が所蔵する膨大（ぼうだい）な数の周辺資料をよりすぐって展示し、マン・レイの足跡とその愛すべき人間性に迫ります。

Man Ray (1890-1976) was an acclaimed American visual artist whose pieces drew on a broad spectrum of media, from film and photography to collage and objet d'art. He was also known for his endearing humanity, embracing friends of diverse ideologies, views and genders, and for his wit and playful mischief. Drawing from Man Ray collections of ours and other collections, this exhibition features his vast array of works as well as the ephemera that offer a fascinating glimpse into Man Ray, the artist and human being.

世界は善を行う人で溢れている。とりわけ、私たちに必要なのは、害をなさない人々の世界である。*2
――マン・レイ



1.「マン・レイのドローイングと絵画」展カタログ 1915年 石原輝雄・純子コレクション　2.マン・レイ《室内また静物＋部屋》1918年 東京富士美術館　3.マン・レイ《贈り物》1921/72年 東京富士美術館
4.《ヴァランティーヌ・ユゴーの肖像》1933年 石原輝雄・純子コレクション　5.マン・レイ《ミスター・ナイフとミス・フォーク》1944年 東京富士美術館　6.マン・レイ《サークル画廊の外観》、「マン・レイ個展（我が愛しのオブジェ）」カタログ いずれも1944年 東京富士美術館（※新収蔵資料）　7.マン・レイ《ライナス・ポーリングへのオマージュ》1943/70年 東京富士美術館（※新収蔵作品）
8.マン・レイ《永続するモティーフ》1923/70-71年 岡崎市美術博物館　©MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3658

*1 ニール・ボールドウィン『マン・レイ』鈴木主税訳、草思社、1993年、p.450より引用／*2 Jennifer Mundy, ed., *Man Ray: Writing on Art*, Los Angeles, 2016, p.444より引用（松田光雄訳）

会期中は毎週、イベント開催！

富士美茶会

［体験］はじめて点てる茶道教室

日時 1月18日（土）、3月1日（土）
10:30 / 11:30 / 13:30 / 14:30 ～
（約30分間）
講師：阿部宗栄（裏千家茶道 教授）

トークセッション

「愛しのマン・レイ」を語る

日時 3月2日（日）14:00～（約1時間）
パネラー
石原輝雄（マン・レイ 蒐集家・研究家）
木水千里（フェリス女学院大学 准教授）
宮川謙一（東京富士美術館 学芸員）

名曲コンサート

松本紘佳（Vn）×佐藤勝重（Pf）コンサート
～マン・レイと交流した作曲家たち～

日時 3月9日（日）14:00～（約1時間）
出演者：松本紘佳（ヴァイオリン）、
佐藤勝重（ピアノ）

上記のイベント以外の週は「ギャラリートーク」を開催します！ イベントの詳細はホームページ www.fujibi.or.jp にて。

同時開催　没後40年
アンドレ・ケルテス展
～前衛写真の萌芽
新館常設展示室 6

入場料　大人 1,500（1,200）円　大高生 900（800）円
中小生 500（400）円　未就学児無料

※新館常設展示室もご覧になれます
※（　）内は各種割引料金［20名以上の団体、シルバー（65歳以上）、当館公式SNSフォロワー・登録者ほか］　※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額［証明書をご提示ください］

交通案内はこちら

FAM
TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

割引券
本チラシをご提示の上、1枚につき10名様まで有効

HP: www.fujibi.or.jp　Facebook: www.facebook.com/fujibi　X: @tokyofujibi　Instagram: tokyofujibi　Line: @tokyofujibi